



## 「良書ご案内」

書籍名	考えるとはどういうことか	著者名	梶谷 真司
出版社名	幻冬舎新書	発行年月	2018年9月

本書のテーマは、「0歳から100歳までの哲学入門」です。梶谷は、哲学は生まれてから死ぬまで、いつでも誰にでも必要だと確信しています。

しかし哲学＝「考えること」は難しく、私たちは「考える」ということを学ぶ機会が、人生においてほとんどないのが現実です。

「考える力」が高まれば、自分のいままでの思い込み、偏った知識、狭いものの見方から距離がとれ、それまでの自分自身から解き放たれます。

梶谷は、「考えること」で私たちは自由になると言います。私たちには、自分を縛っている「もの」があり、それは、役割、立場、境遇、常識、固定観念などであり、長い仕事人生における価値観、好き嫌い、劣等感や優越感などによって「考え」が狭く縛られています。

自分の思い込んでいた前提条件に気づけば、それが揺らぎ取っ払われる。支え棒がとれ、底が抜けて宙に浮いた感覚になると言います。

私たちが読書をする目的の1つは、著者の生き様を知り、考え方に共感し、人様に迷惑を掛けない限り「俺も自由に生きていいんだ」と納得することにあると思います。

本書では実践的な考えるための具体策を示しています。

極意は、「問うこと」が「考えること」であり、「問いの質」によって「思考の質」が決まると言います。

その様な「問い方」の具体例を多数列挙しているので、その一部を紹介します。

- ・ 言葉の意味を明確にする。 「いい父親ってなに？」
- ・ 理由、根拠、目的を考える。 「何のために大学に行くの？」
- ・ 違いを問う。 「(誇る)のと(うねぼれる)のはどこが違うのか？」
- ・ 時間軸を問う。 「戦前はどうかだったのか？」 「10年後はどうなるのか？」
- ・ 大きな問いを小さくする。「生きる意味は何か？」 このままでは手に負えないので、問いを立て直す  
⇒ 「なぜ私は生きる意味を問うのか？」 ⇒ 最近就職活動がうまくいってなかったから…

本書の姉妹本で2022年12月に「書くとはどういうことか」(飛鳥新社)が出版されています。

私たちは文章の書き方も本格的には学んでいません。「文章をかければ人生が変わる」と言います。

基本の考え方は同じで、「書き方を学ぶ」とは、「考え方を学ぶ」ことであり、「考え方を学ぶ」とは、「問い方を学ぶ」こと、そして「問い方」は能力の問題ではなく、経験の問題だと説明しています。

梶谷は、私たちには自分が書かなければならない文章、自分だからこそ書く意味がある文章があると考え、それを自分の言葉で書くことを強く勧めています。

私も「生き方が変わる読書」を今後も続けたいと思っています。

岩城

WBCが優勝で終わり、侍ジャパンロスが日本中を覆っているとか。楽しそうに結果を出すことの醍醐味を感じた。まず自分が楽しく、みんなも楽しくをモットーに「まちづくり系医師」のネーミングに相応しい井階友貴先生。人口1万人の福井県高浜町で次々に企画を繰り出し、住民同士のつながりを強めている。なぜか?2014年公表の消滅可能性都市の1つが高浜町だったから。医療づくりからまちづくりにシフトし、医療に無関心な層をつなげることで、いつの間にか健康に。たばこや飲酒、運動よりも寿命に影響を与えるとされる。町だけの取組から全国を結ぼうと「健康のまちづくり 友好都市連盟」を発足!ハードルを低くしお互いの「健康のまちづくり」アイデアを共有しようと試みる。大阪府なら大東市、兵庫県は香美町、奈良県は広陵町などが参加。今年は11月4・5日に千葉県市原市でサミット開催。インゼルス大谷選手曰く「どの惑星から来たの?」に「日本の田舎」と回答、そこには人口ボリュームの多寡で情熱は測れないの典型例が。

新年度スタート!自らの信じる道を進めば、道は開かれる! 所在地: 〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-877ビル2F